

第5回日本血管看護研究会
第48回日本血管外科学会学術総会合同開催



ここからはじめよう浮腫看護の第1歩

2020年11月27日(金)～12月27日(日)
第48回日本血管外科学会学術総会 Web オンデマンド配信
<https://site2.convention.co.jp/48jsvs/>

大会長：渡辺直子 佐賀大学医学部附属病院
代表世話人：溝部昌子 西南女学院大学

プログラム

基調講演：「浮腫看護の第一歩 –診断からケアそして、看護へ–」

佐賀大学医学部附属病院 渡辺直子

特別講演1：「静脈疾患やリンパ浮腫に対する

圧迫療法の原理と圧迫療法の要素」

岐阜ハートセンター 越野理和 先生

特別講演2：「静脈疾患における治療と保険算定について

実際の治療器具もあわせて」

メディジャパン株式会社 藪中美登里 先生

開会挨拶

第 5 回日本血管看護研究会

大会長 渡辺直子

佐賀大学医学部附属病院

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）感染拡大の影響により、開催延期を余儀なくされていた第 5 回日本血管看護研究会ですが、第 48 回日本血管外科学会学術総会の Web 開催決定に伴い、当会も Web 開催の運びとなりました。開催形式はオンデマンド配信となるため、シンポジウムや一般演題の質疑応答を含む発表形式は困難となり、実行委員との度重なる検討の上、講演 3 題を配信させていただくこととなりました。テーマは変わりなく「ここからはじめよう浮腫看護の第 1 歩」としまして、全般的な浮腫看護の知識と共に、新しく 2020 年度診療報酬改定に伴い追加されました、「静脈性潰瘍に対する静脈圧迫処置」に関連するトピックスを演題として追加致しました。Web 開催にあたり、第 48 回日本血管外科学会学術総会プログラムの一部となるため、双方のプログラム全てを閲覧できる形式となります。実行委員共々、血管看護に関わる皆様の知識と看護技術の向上になるよう努めてまいります。

基調講演

ここからはじめよう浮腫看護の第一歩 渡辺直子（佐賀大学医学部附属病院）

近年、浮腫に対する医療が変化している。2018年のリンパ浮腫複合的治療料の算定開始、更に2020年の複合的治療料及びリンパ浮腫指導管理料の算定要件の改訂、同年の四肢のリンパ浮腫治療のための弾性着衣等に係る療養費の支給の改正は、リンパ浮腫患者にとって、経済的な負担の軽減となった。また、2018年のリンパシンチグラフィーの保険適応は、リンパ浮腫に対する確定診断や治療をより明確にできる転換点となっている。更に本年の静脈性潰瘍に対する静脈圧迫処置（圧迫療法）の保険収載や慢性静脈不全による難治性潰瘍治療のための弾性着衣等に係る療養費の支給も加わり、浮腫治療が患者にとってより負担の少ない治療へ変化してきている。一方で、保険適応となることで、浮腫に関わる診断・治療および看護の評価基準と記録の標準化が課題となってくるが、医療・看護においても未だ整備されてはいない。

そもそも浮腫は、全身または局所に引き起こされる細胞外液の貯留であり、多くの分野で散見される。治療には外科治療と保存治療があり、国際リンパ学会で提唱されている保存治療は「複合的理学療法」があり、日本では生活改善を入れた「複合的治療」を提唱している。浮腫ケアの実施者は、医療従事者であるが、日本では看護師が浮腫ケアに関わる割合が諸外国に比べ非常に高く、看護の力が浮腫ケアにも多く発揮され、患者のセルフケア維持に貢献している。

浮腫患者の看護では、患者の全人的アセスメントが重要であり、その際の看護の観察力は非常に重要である。浮腫はその病態のみが問題ではない場合も多く、随伴症状として出現する場合も多く、看護師は心血管をはじめとする脈管や腫瘍学等多くの知識技術に基づいた観察眼が必要である。また、それらの多くが患者の生活の語りから発見されることも多くコミュニケーション技術を要する。これらを同時に行いながら、急性期か慢性期かを瞬時に判断し適切なケアを選択しなければならない。

また、患者の症状マネジメントには患者行動や言動をアセスメントし、その人に応じた対応が重要である。特に慢性化の経過をたどる浮腫患者に対し、患者の身体的精神的社会的側面に対し看護理論を使用し、患者理解を深めるとともに、それを言語化することで多職種連携をスムーズにできるため、浮腫看護が果たす役割は大きい。今回の講演では、1 様々な浮腫のアセスメントに役立つ検査・所見 2 急性期の浮腫と看護 3 慢性期の浮腫への看護 この3つについて、皆様と一緒に考える機会としたい。

特別講演 1

静脈疾患やリンパ浮腫における圧迫療法の原理と圧迫療法の要素
越野理和 先生 （医療法人 岐阜ハートセンター）

圧迫療法とは、弾性ストッキングや弾性包帯などの弾性着衣の装着や、空気圧駆動のポンプ装着により身体に物理的な圧迫圧をかけることである。それにより、静脈やリンパの還流を促進しうっ滞を減少させる治療法となる。実際に多くの医療現場で予防または治療を目的として行われているが、看護師のみならず、その治療に関わる医療スタッフが正しい圧迫療法を理解していなければ、不適切な圧迫療法により医療関連機器圧迫損傷（MDRPU）をはじめとした合併症を引き起こしてしまう。しかし、圧迫療法を必要とする病態や適応を正しく理解し、圧迫療法の原理と要素を学ぶことで、看護師は患者の生活背景も含めた観察力やアセスメント能力を発揮し、正しい使用方法の指導やケアに結びつけることができる。

圧迫療法には、大切な4つのエッセンスとして、圧迫療法を規定する因子 PLACE（P：圧 PRESSURE・LA：層 LAYER・C：構成要素/方法 COMPONENT・E：伸縮性、伸び硬度 ELASTICITY）がある。基本的に圧迫圧は医師の指示となるが、現場ではこの4つの因子をどのように組み合わせ選択し、指導を行うかが看護師に委ねられ、悩むことも少なく無い。そこで、「そもそも、圧迫がなぜ必要なの？」「圧迫以外にどうしようもないの？」といった患者目線に視点を置きつつ、専門職として脈管に関する解剖や静脈還流の規定因子とその破綻する要因を結び付けていくと、介入の糸口に繋がっていく。また、圧迫療法は圧迫着衣を選択し一方的に提供するのではなく、装着手順、運動、セルフケア指導を適切に組み合わせ治療効果に繋がるための介入が必須となる。私達看護師は、ガイドラインやエビデンスなどの根拠に基づき、対象者個々に合わせたアセスメントを行い、看護介入を提供する事で、予防や症状の改善、生活の質：QOLの維持、向上に繋げ、患者自身のセルフケア能力となるアドヒアランスの維持、向上の支援にも繋がると考える。

今年度、2020年度の診療報酬改定において静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの）が算定できるようになった。その施設基準を得るためには、医師および看護師がそれぞれ所定の研修（日本静脈学会認定：弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター）を修了しなければならないとなっている。ここに施設基準を得るために看護師が必要と評価された意味を真摯に受け止め、この日本血管看護研究会をはじめとした学びの場において、皆様と共に研鑽を積んでいきたい。

特別講演 2

静脈疾患における治療と保険算定について実際の治療器具もあわせて
藪中美登里 先生 (メディジャパン株式会社)

キーワード：静脈疾患、静脈性下腿潰瘍、圧迫療法、弾性着衣、面ファスナー式弾性着衣、診療報酬改定、弾性着衣療養費申請

静脈性疾患は加齢、妊娠、肥満などさまざまな身体機能の変化によって起こり、外科的な血管治療もしくは弾性着衣等を用いた圧迫療法により治療が行われる。中でも、慢性静脈不全により引き起こされる下腿潰瘍は多くのケースで難治性であり、長期の治療並びに頻回な創傷ケアを必要とするだけでなく、創部の疼痛、熱感、腫脹や匂いなど患者の QOL を著しく減少させる。本年の診療報酬改定で静脈性下腿潰瘍に対する静脈圧迫処置に対して診療報酬加算が開始されると共に、処置後に用いる弾性着衣に対して療養費の申請が可能となった。適切に圧迫治療を行うための施設基準が設けられるだけでなく、施設認定に必要な研修も関連学会により開催されている。これら静脈性疾患治療に対する医療保険による患者へのサポート、関連学会による医療者へのサポートにより、慢性静脈不全に悩む患者をよりスムーズに、適切に救済できるであろう。医療現場では限られた時間、限られた物品・コストに加え、限られたマンパワーの中で治療・ケアを行うだけでなく、より良い治療結果が要求される。そこで、慢性静脈疾患の病態生理を踏まえた治療方法、圧迫の方法(治療用具)を用いることで、治療・ケアに対する医療者の時間、使用する物品・コスト、マンパワーを削減するだけでなく、患者のセルフケア、自立を促し、QOL を向上させていく方法として面ファスナー式の弾性着衣をご紹介します。併せて、すでに面ファスナー式弾性着衣を用いて静脈性下腿潰瘍の治療を行っているイタリアとイギリスの研究もご紹介する。

静脈性疾患は慢性疾患であり、潰瘍治癒後も継続的な圧迫療法が必要であり、ケアと共に十分な患者指導が必要と考える。患者指導の際に、さまざまな圧迫用具を工夫し採用する事で、個々の患者に合わせた継続可能なセルフケア、患者の自立と QOL 向上が目指せると考える。

第5回日本血管看護研究会

大会長 渡辺直子

実行委員 中山佳之 渡辺直子 溝部昌子



日本血管看護研究会

Japanese Society for Vascular Nursing

E-mail: vascular.nursing@gmail.com

URL: <http://jsvn.umin.jp>

